

① 申請者	山形県 (山形市、寒河江市、天童市、尾花沢市、 山辺町、中山町、河北町、大石田町、白鷹町)	② タイプ	地域型 / シリアル型 A B C D E
-------	---	-------	--------------------------

③ タイトル

やまでら べにばな
山寺が支えた紅花文化

④ ストーリーの概要 (200字程度)

鬱蒼と茂る木々に囲まれた参道石段と奇岩怪石の景勝地「山寺」。この山寺が深くかかわった紅花栽培と紅花交易は莫大な富と豊かな文化をこの地にもたらした。石積の板黒塀と堀に囲まれた広大な敷地を持つ豪農・豪商屋敷には白壁の蔵座敷が立ち並び、上方文化とのつながりを示す雅な雛人形や、紅花染めの衣装を身に着けて舞う舞楽が今なお受け継がれ、華やかな彩りを添える。この地の隆盛を支えた山寺を訪れ、今も息づく紅花畑そして紅花豪農・豪商の蔵座敷を通して、芭蕉も目にした当地の隆盛を偲ぶことができる。



地域を見守る山寺からの景観



豪農屋敷 (旧柏倉家住宅) と紅餅 (染料)



花笠まつり (花笠は紅餅を表現)

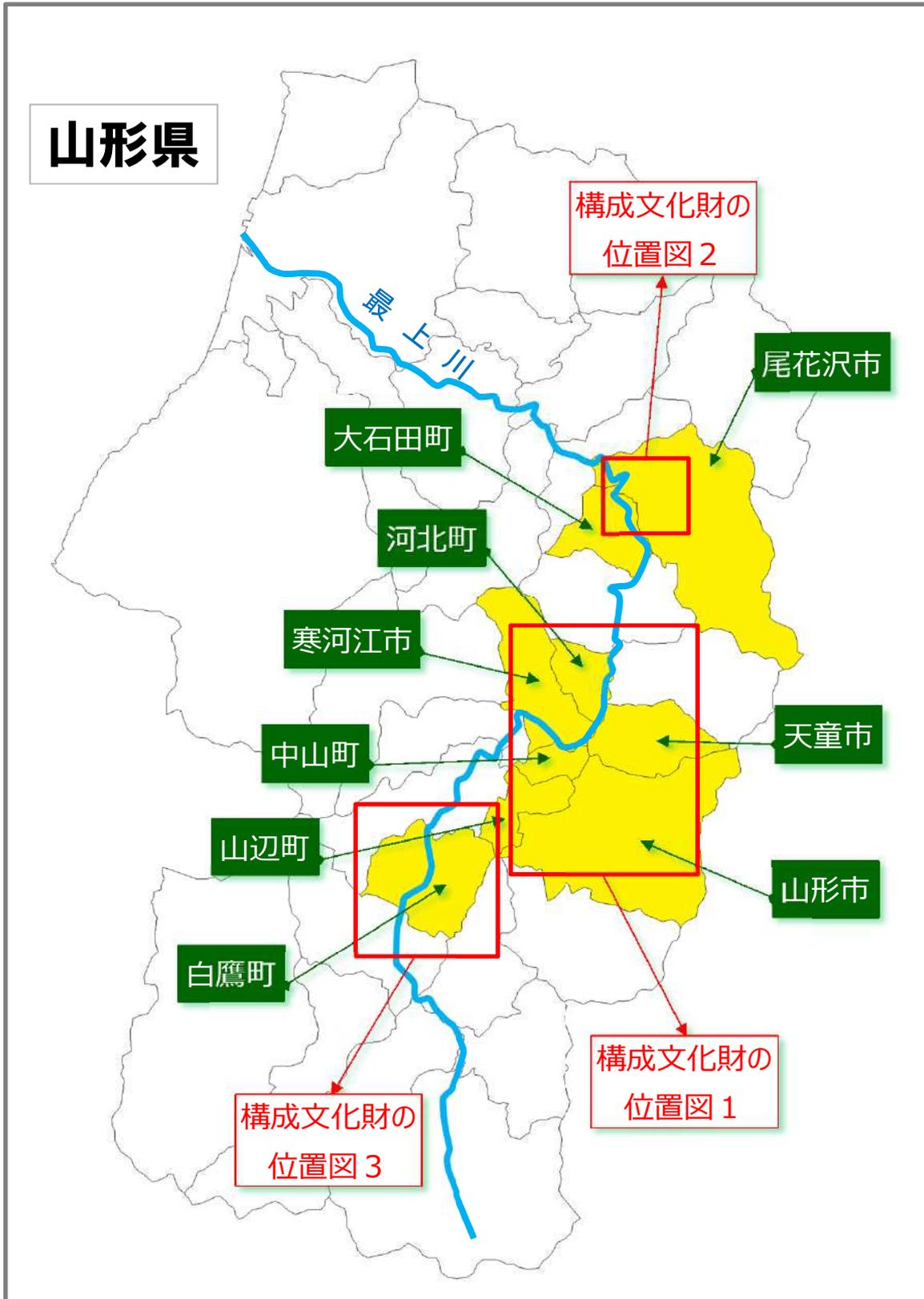


林家舞楽 (紅花染め衣装)



芋煮 (地域の食文化)

市町村の位置図(地図等)

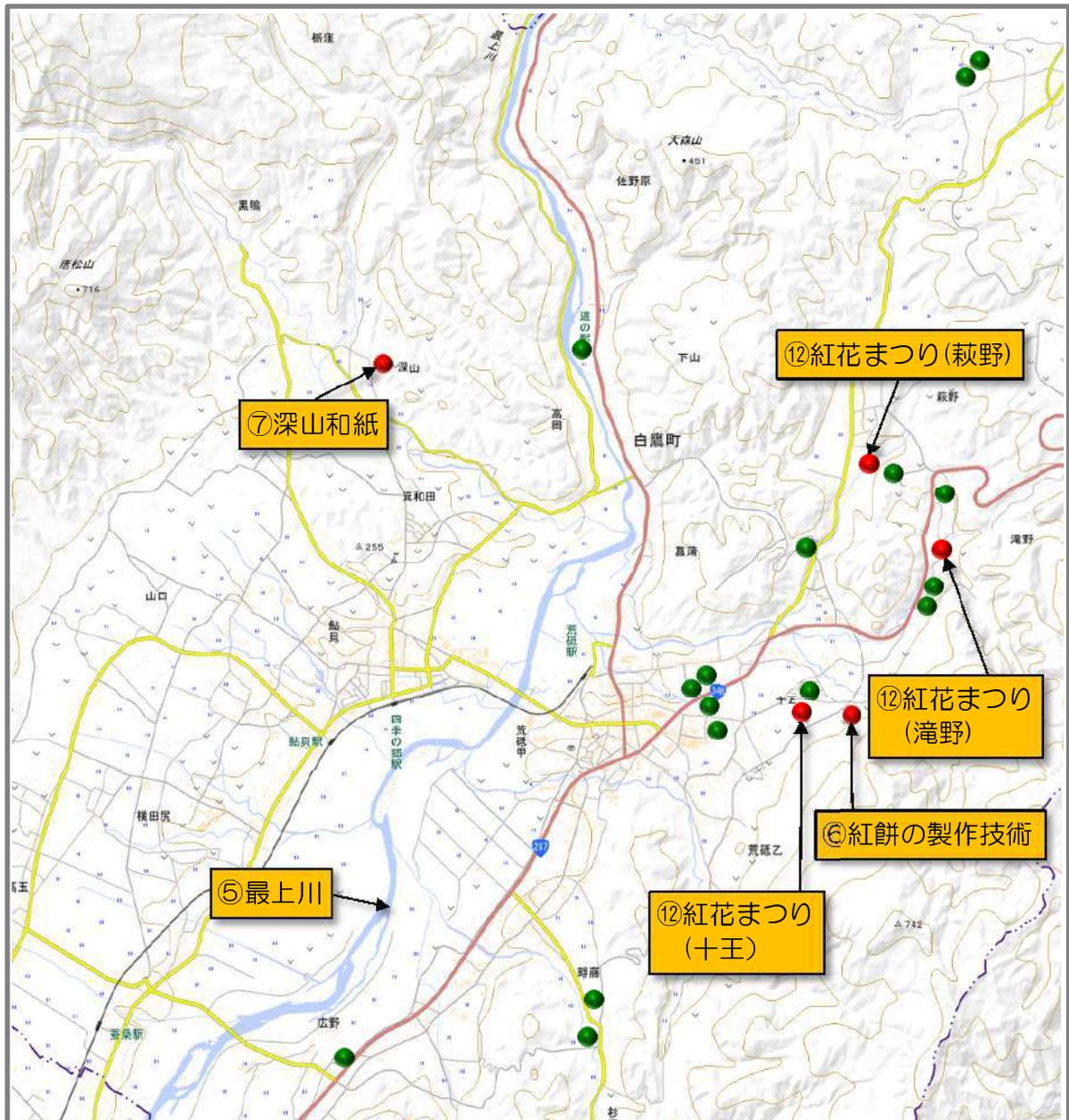


構成文化財の位置図 2



構成文化財の位置図 3

白鷹町



- ①紅花畑の景観…●
- ③芋煮…全域
- ③おみづけ…全域

※国土地理院地図データをもとに作成

ストーリー

山形県の中央部に位置する村山地域は、江戸時代には日本一の紅花の産地として知られました。紅花は上方に運ばれて華麗な西陣織や化粧用の紅に加工されて日本人の暮らしを彩りました。ここでは紅花交易を通してもたらされた豊かな富と華やかな上方文化が今も息づいています。その発展の背景には当地を代表する古刹「山寺」が深くかかわっていました。



花笠まつり

■山寺が支えた紅花交易の発展

山寺（宝珠山立石寺）は、慈覚大師円仁が平安時代に清和天皇の勅命を受けて建立したと伝わる天台宗の寺です。長い年月を経て侵食された奇岩怪石が覆う山肌や、鬱蒼と茂る木々に囲まれた千数百段の石段など、自然景観と諸寺、そして門前町が一体となって山寺を構成しています。本堂には、比叡山延暦寺から分火された「不滅の法灯」が千年以上も絶えることなく燃え続け、この地を見守り続けています。



地域を見守る山寺からの景観

紅花は慈覚大師や第二世安然大師によってこの地に伝えられたと言われていています。山寺の門前町、慈覚大師の随行六人衆が起こした旧干布村（天童市干布地区）は立石寺の寺領とされ、江戸時代の早くから紅花栽培が行われ、多くの紅花商人が出て活躍しました。また、立石寺を本寺とした旧高瀬村（山形市高瀬地区）でも紅花栽培が盛んに行われ、今も主要な産地です。



豪農屋敷の周囲に広がる紅花畑

この地は、最上川がもたらす肥沃な土壌と朝霧の立ちやすい気候風土が良質な紅を多く含む紅花を育み、トゲのある紅花を摘み易くした栽培適地でしたので、やがて流域で広く栽培されるようになりました。江戸時代初期には全国生産量の50～60%を占め、質・量ともに日本一の紅花産地となったのです。元禄2年（1689年）山寺参詣の道すがら紅花畑を

目にした松尾芭蕉は「眉掃きを 俤にして紅粉の花」、「行末は誰が肌ふれむ紅の花」と句を詠みました。朝霧の中、一面に広がる紅花畑と若い娘たちが忙しく紅花を摘む様子が目に浮かぶようです。村々で栽培された紅花は「花買い」と呼ばれる商人が集荷し、紅花商人の屋敷で大勢の人の手で洗い干して煎餅状に丸めた「紅餅」に加工されます。地元産の和紙などに大切に包まれた紅餅は川の難所を避けて陸送され、やがて大石田河岸で舟積みされて最上川舟運と西回り航路（北前船）を介して上方へと運ばれました。当地に残る屏風絵はこうした様子を生き活きと今に伝えます。女性が口紅を塗る様子を表現する「紅をさす」という言葉の語源は紅花に由来します。産地でも紅花染めは行われており、体を温める効用を持つ紅花で染めた下着は、夏なお雪が残る出羽三山を参詣する行者がこぞって買い求めたと言います。

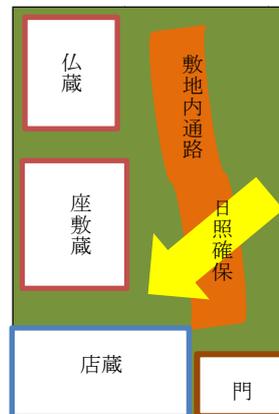
また、比叡山と古くから関係のある山寺の存在は、比叡山と縁故の深い「近江商人」たちをこの地に惹きつけました。山形の領主最上義光も積極的に商売上手な近江商人を誘致して上方との取引を盛んにしようとしたことから、やがて近江商人は山形市の中心部に店舗を構え、地元の商人とともに紅花交易を通して莫大な富をもたらした上方文化をこの地に伝えるとともに、山寺への寄進も行いました。これら紅花商人が時代とともに商売の形態を変えながら、現在も山形の経済を牽引し続けていることはこの地ならではの特徴と言えます。

このように山寺と紅花には深いつながりがあり、山寺の存在が紅花を通してこの地域を経済面でも文化面でも大きく発展させたのです。

■山寺と紅花交易がもたらした豊かな富と今に伝わる紅花文化

「最上紅花」と呼ばれた当地の紅花は、朱から真紅まで多様な色合いを出す貴重な染料であり、その価格は「米の百倍・金の十倍」と言われた高級品だったので、その交易は莫大な富を生みました。商人が集まる町場や産地には豪農や豪商が己の財力と格式を誇示する屋敷を構えました。この地には、紅花交易全盛期を偲ばせる立派な蔵屋敷が今も数多く残り、当時の栄華をうかがい知ることができます。また建物には当地ならではの特徴が見られます。

一つ目の特徴は、北前船で伝わった上方の座敷蔵文化と、羽州街道により伝わった江戸の店蔵文化が、同一敷地内で見られることです。屋敷の多くは、通りに面して門を建て、「店蔵（店舗兼住居）」、「座敷蔵（賓客をもてなす場）」、「仏蔵（仏間）」を建てました。江戸の土蔵造りは黒壁、上方は白壁を原則としますが、この地の蔵は全て白壁であり、上方文化の影響を見てとれます。また、羽州街道を利用した紅花交易も江戸時代の半ばから盛んになったので、江戸の店蔵文化が伝わりました。二つ目の特徴は、豪雪地ならではの建物の配置が見られることです。敷地は、通りに面して短冊状に割られ、敷地の北に寄せて建て、敷地の南に門を建て日照を確保するための敷地内通路が設けられています。三つ目の特徴は、「座敷蔵」では上方文化の調度品が数多く見られることです。住居のうち最も格式が高く、床の間、棚、書院付きの座敷蔵は耐火性と保存性に優れ、贅を尽くして収集された可憐な雛人形や紅花染め衣装、屏風などを眺めると往時の華やかな暮らしをうかがい知ることができます。産地の荷主は取引上しばしば上方へ出張しており、華麗な雛人形や紅花染め衣装に魅せられて買い求め土産としたものが今に伝えられています。自慢の雛人形はひなまつりの時期にそれぞれの自宅や蔵を開放して公開されます。それは当地に春を告げる風物詩です。その豪華さと数の多さを目にした人々は、かつての紅花交易がもたらした莫大な富に思いをはせます。



また、山寺立石寺の開山とともに伝えられ、谷地八幡宮や慈恩寺において毎年奉納される上方舞楽は、紅花染めの神聖な赤い衣装が用いられ、華やかに舞う姿は人々を魅了します。慈恩寺にはあでやかに唇に紅をさす化粧を施された秘仏が安置され、信仰を集めています。

紅花交易は食文化にも影響を与えました。当地の郷土料理「芋煮」は、秋に川原で食べる鍋料理です。紅花を上方に運んだ船頭が、地元の食材の里芋と帰りの荷の棒鱈を川原で煮て食べたことが発祥と言われます。また、家庭料理として親しまれている「おみづけ（近江漬け）」は堰に流れる青菜等のくず野菜も無駄にせず漬物にして食し、儉約と商いに努めた近江商人由来の食文化です。

紅花は当地に莫大な富をもたらし、豊かな文化を今に伝えます。この地域を訪れる者は、山寺の情景と紅花畑、紅花豪農・豪商の蔵座敷そして雛人形など、様々な上方由来の文物を通して芭蕉もきつと目にしたに違いない、紅花で栄えた当地の隆盛を偲ぶことができるのです。



豪商屋敷が通りに並ぶ（門と白壁の店蔵）



春には自宅や蔵を開放してひな人形を公開



家庭料理「おみづけ」（近江漬け）

ストーリーの構成文化財一覧表

番号	文化財の名称 (※1)	指定等の状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ (※3)	文化財の所在地 (※4)
①	紅花畑の景観	未指定 (景観)	紅花栽培は当地の気候風土と合い、江戸時代初期には全国生産の大半を占めた。西陣織や化粧用に加工される貴重な赤い染料。紅花は当地を経済面でも文化面でも大きく発展させた。	山形市、天童市、中山町、河北町、白鷹町
②	やまてら 山寺	国名勝史跡	紅花栽培の始まりとその発展に深くかかわりのある寺。比叡山との縁故から近江商人を惹きつけて、紅花交易の発展を加速させた。慈覚大師円仁が開基。	山形市
③	りっしやくじちゆうどう 立石寺中堂	国重文 (建造物)	紅花交易を地元の商人とともに発展させた近江商人を惹きつけた「不滅の法灯」が伝えられる山寺の本堂。比叡山延暦寺から分灯された。	山形市
④	じやくしょうじかんのんどう 若松寺観音堂	国重文 (建造物)	山寺を開基した慈覚大師円仁を中興の祖とする天台宗の寺、若松寺の観音堂。若松寺は慈覚大師が大規模な造営工事を行い伽藍配置がなされた。	天童市
⑤	もがみがわ 最上川	未指定 (景観)	最上川の氾濫原と朝霧や朝露がたちやすい気象条件が紅花栽培の適地となった。沿岸の集落が紅花の主要な産地であり、紅花は最上川を下って上方に運ばれた。	寒河江市、天童市、尾花沢市、中山町、河北町、大石田町、白鷹町
⑥	べにもち 紅餅の製作技術	未指定 (無形)	紅花に含まれる赤い色素はわずか1%。収穫後によく洗って黄色素を取り除き、干して丸めて乾燥させた紅餅の状態出荷した。当地産の紅餅は品質の良い高級品で「最上紅花」と呼ばれその交易が当地に経済的発展をもたらした。	山形市、天童市、中山町、河北町、白鷹町
⑦	みやまわし 深山和紙	県指定 (無形)	高価な商品作物であった紅花（紅餅）は、厚紙などで作った「花袋」に入れられ、さらにゴザなどで包み出荷された。往時、白鷹町深山地区で作られた和紙は地元産の紅花の花袋として使用された。その製作技術は今も当地に引き継がれている。	白鷹町

⑧	おおいしだかしえず 大石田河岸絵図	町指定 (歴史資料)	江戸時代、紅花交易などで最上川舟運最大の河岸として賑わった様子を伝えるもの。護岸築堤がなされ、多くの物資が往来できるように最上川の流れて沿って東西に貫いて大通りが設けられ、整備された町並みの様子がわかる。	大石田町
⑨	おおいしだかし 大石田河岸の景観	未指定 (景観)	紅花は川の難所を避けて生産地から大石田までは陸送され、大石田河岸から舟積みされて上方へと送られた。最上川から店棚を通して表通りまで通じる路地「ろうず」が残る家屋などから往時の河岸の様子をうかがい知ることができる。	大石田町
⑩	べにばなびょうぶ 紅花屏風	県指定 (絵画)	江戸時代、紅花栽培が盛んに行われていた当地の様子を伝えるもの。紅花の栽培から収穫、紅餅に加工する作業や上方へ運び取引する様子が分かる。	山形市
⑪	はながさ 花笠まつり	未指定 (無形民俗)	花笠まつりで用いる花笠は、紅餅を <small>むしろ</small> 籠 <small>かご</small> に広げて干す様子を表している。踊り手が花笠を手に列を作って練り歩く様は一面の紅花畑が広がる光景を再現している。	山形市、天童市、尾花沢市
⑫	紅花まつり	未指定 (無形民俗)	江戸時代に当地で盛んに行われていた紅花の収穫、紅餅づくり、紅花染めを体験できる。初夏のまつり。	山形市、天童市、中山町、河北町、白鷹町
⑬	紅花染め衣装 (亀綾織絹地鶴亀ニ 松竹梅福寿模様藍ニ墨 ト紅曙染女中裁 祝着)	町指定 (有形民俗)	紅花は上方に運ばれたのちに西陣織などの染料となった。産地の荷主が上方から買い求めた紅花染め衣装が当地には数多く残る。	河北町
⑭	紅花染め衣装 (揚柳上布地離ニ春花 模様藍墨ト紅ノ曙染 単大振袖)	町指定 (有形民俗)	紅花は上方に運ばれたのちに西陣織などの染料となった。産地の荷主が上方から買い求めた紅花染め衣装が当地には数多く残る。	河北町
⑮	紅花染め衣装 (元禄紅花染小袖)	町指定 (工芸品)	紅花は上方に運ばれたのちに西陣織などの染料となった。産地の荷主が上方から買い求めた紅花染め衣装が当地には数多く残る。	山辺町

⑯	紅花染め衣装 <small>ちりめんべにばなぞめふりそで</small> (縮緬紅花染振袖 A)	町指定 (工芸品)	紅花は上方に運ばれたのちに西陣織などの染料となった。産地の荷主が上方から買い求めた紅花染め衣装が当地には数多く残る。	山辺町
⑰	紅花染め衣装 <small>ちりめんべにばなぞめふりそで</small> (縮緬紅花染振袖 B)	町指定 (工芸品)	紅花は上方に運ばれたのちに西陣織などの染料となった。産地の荷主が上方から買い求めた紅花染め衣装が当地には数多く残る。	山辺町
⑱	芭蕉の句碑	未指定 (史跡)	江戸時代に山寺参詣の途中、紅花畑を目にした芭蕉が紅花を題材に句を詠んだ。そのことを示す句碑が残る。	天童市
⑲	<small>べに</small> 紅の蔵及び収蔵資料 (旧長谷川家)	未指定 (建造物/美作品)	江戸時代、紅花商人(豪商)として活躍した長谷川家の屋敷。通りに面し、門を構え、店蔵、座敷蔵が残る。	山形市
⑳	芭蕉、 <small>せいふう</small> 清風歴史資料館 (旧丸屋鈴木家住宅)	未指定 (建造物)	江戸時代、紅花商人(豪商)として活躍した鈴木清風を紹介する史料館として活用されている。俳人でもあった清風は松尾芭蕉に山寺参詣を勧め、その道中、芭蕉は紅花畑や山寺で名句を残した。	尾花沢市
㉑	紅花資料館及び収蔵資料 (旧堀米家)	町指定 (建造物)	江戸時代、紅花商人(豪農)として活躍した堀米家の屋敷。立派な門を構え、堀と塀を設けて敷地を囲む。座敷蔵、御朱印蔵、母屋、武者蔵、雛人形、紅花染め衣装などが残る。	河北町
㉒	旧安部家住宅と屋敷 及び収蔵資料	町指定 (建造物)	江戸時代、紅花商人(豪農)として活躍した安部家の屋敷。黒塀に囲まれ、蔵や調度品などが残る。	河北町
㉓	旧柏倉家住宅及び収蔵資料	国重文 (建造物)	江戸時代、紅花商人(豪農)として活躍した柏倉家の屋敷。立派な門を構え、黒塀で敷地を囲む。座敷蔵には上方由来の雛人形を始め、数多くの調度品が残る。	中山町
㉔	ふるさと資料館及び収蔵資料 (旧佐藤家)	未指定 (建造物/美作品)	江戸時代、紅花商人(豪農)として活躍した佐藤家の屋敷。雛人形や紅花染め衣装が残る。	山辺町
㉕	<small>じろうざえもんおきあ</small> 次郎左衛門置上げ立雛	町指定 (工芸品)	紅花で栄えた商家が上方から買い求めた華やかな雛人形が当地には数多く残る。	河北町
㉖	<small>きょうほうだいらびな</small> 享保内裏雛	町指定 (工芸品)	紅花で栄えた商家が上方から買い求めた華やかな雛人形が当地には数多く残る。	河北町

⑳	ごしよにんぎょう 御所人形	町指定 (工芸品)	紅花で栄えた商家が上方から買い求めた華やかな雛人形が当地には数多く残る。	河北町
㉑	からくり人形	町指定 (工芸品)	紅花で栄えた商家が上方から買い求めた華やかな雛人形が当地には数多く残る。	河北町
㉒	紅花商人㉑長谷川家の上方由来コレクション		江戸時代、紅花商人(豪商)として活躍した㉑長谷川家が贅を尽くして収集した上方由来の文物。現在、(財)山形美術館で公開され、往時の紅花交易の隆盛を今に伝える貴重なコレクションである。	山形市
	絹本著色紅花屏風 横山華山筆 六曲屏風	県指定 (絵画)	江戸時代の紅花の栽培から収穫、紅餅に加工する作業や上方へ運び出す様子が分かるもの。精緻な描写が往時の紅花生産の賑わいを今に伝える。	山形市
	紙本淡彩奥の細道図 与謝蕪村筆 六曲屏風	国重文 (絵画)	奥の細道の全文が墨書され、「山刀伐峠越え(尾花沢市)」などの9場面の画を巧みに配している。文中には尾花沢の紅花商人鈴木清風宅に寄り、山寺参詣を勧められたことや、山寺で詠んだ句などが記されている。	山形市
	出羽三山巡礼句 芭蕉筆	県指定 (書籍)	松尾芭蕉は奥の細道の道中、山寺から北上して大石田の河岸より最上川舟運で出羽三山に向かった。その感動を3つの句に詠んだもの。	山形市
㉓	ひな市(ひなまつり)	未指定 (無形民俗)	紅花交易の帰り荷として当地に残る雛人形は、毎年2～4月に各地で開催されるひな市にあわせて公開される。自宅や蔵などを開放して雛人形を公開する。ひな市は当地の春の風物詩。露店が立ち賑わう。	山形市、寒河江市、天童市、尾花沢市、山辺町、中山町、河北町、大石田町
㉔	はやしげぶがく 林家舞楽	国無形民俗	山寺立石寺建立とともに上方より伝えられた舞楽。谷地八幡宮神職林家が一子相伝で1,100余年伝えるもの。紅花染めの衣装が用いられる。	河北町
㉕	おぼなざわががく 尾花沢雅楽	市指定 (無形)	紅花交易が盛んだったころ、最上川舟運により運ばれた宮廷の風雅な調べを今に伝える。	尾花沢市
㉖	尾花沢まつり <small>はやし</small> 囃子	市指定 (無形)	紅花交易が盛んだったころ、最上川舟運により運ばれた宮廷の流れを組む組曲を今に伝える。	尾花沢市

③④	やち はちまんぐう 谷地八幡宮	未指定 (建造物)	毎年9月、林家舞楽が奉納される。上方由来の舞楽を紅花染め衣装を身にまとった楽人が舞う。	河北町
③⑤	じおん じきゅうけいだい 慈恩寺旧境内	国史跡	毎年5月、林家舞楽が奉納される。上方由来の舞楽を紅花染め衣装を身にまとった楽人が舞う。	寒河江市
③⑥	もくぞうみろくぼさつ しよそんぞう 木造弥勒菩薩及び諸尊像 附 弥勒菩薩像像内 のうにゆうひん 納入品	国重文 (彫刻)	唇に紅をさす化粧を施された本山慈恩寺の秘仏。かつて寒河江市は紅花の主産地のひとつであり、紅花を売り買いした「花買場」という地名が市内に残る。	寒河江市
③⑦	じおん じほんどう 慈恩寺本堂	国重文 (建造物)	唇に紅をさす化粧を施された秘仏が伝わる本堂。	寒河江市
③⑧	いも じ 芋煮	未指定 (一)	江戸時代、紅花を運んだ最上川の船頭が、地元の里芋と帰り荷の棒鱈を川原で煮て食べたことが発祥と伝わる当地の郷土料理。川原で食す「芋煮会」は当地の秋の風物詩。	山形市、寒河江市、天童市、尾花沢市、山辺町、中山町、河北町、大石田町、白鷹町
③⑨	おみづけ (おうみづ 近江漬)	未指定 (一)	近江商人由来の漬物。家庭料理として親しまれている。江戸時代、当地に移り住んだ近江商人は堰に流れる青菜等の野菜くずも無駄にせず漬物にして食した。	山形市、寒河江市、天童市、尾花沢市、山辺町、中山町、河北町、大石田町、白鷹町

構成文化財の写真一覧

①紅花畑の景観



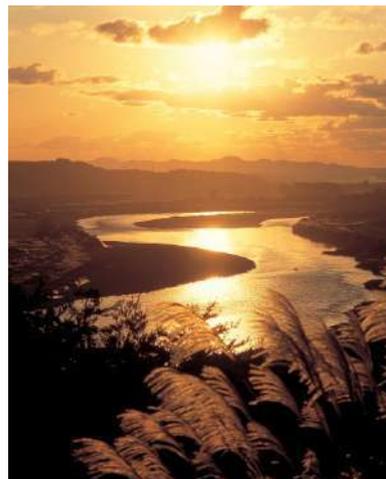
④若松寺観音堂



②山寺



⑤最上川



③立石寺中堂



⑥紅餅の製作技術



⑦深山和紙



⑩紅花屏風



⑧大石田河岸絵図



⑪花笠まつり



⑨大石田河岸の景観



⑫紅花まつり



⑬紅花染め衣装
(亀綾織絹地鶴亀二松竹梅福寿模様
藍二墨ト紅曙染女中裁祝着)



⑭紅花染め衣装
(楊柳上布地籬二春花模様藍墨ト
紅ノ曙染単大振袖)



⑮紅花染め衣装 (元禄紅花染小袖)



⑯紅花染め衣装 (縮緬紅花染振袖A)



⑰紅花染め衣装 (縮緬紅花染振袖B)



⑱芭蕉の句碑



⑱紅の蔵 (旧長谷川家)



⑳旧安部家住宅と屋敷



㉑芭蕉、清風歴史資料館
(旧丸屋鈴木家住宅)



㉒旧柏倉家住宅



㉓紅花資料館 (旧堀米家)



㉔ふるさと資料館 (旧佐藤家)



⑳次郎左衛門置上げ立雛



㉑からくり人形



㉒享保内裏雛



㉓紅花商人 ㉔長谷川家の上方由来コレクション



㉕御所人形



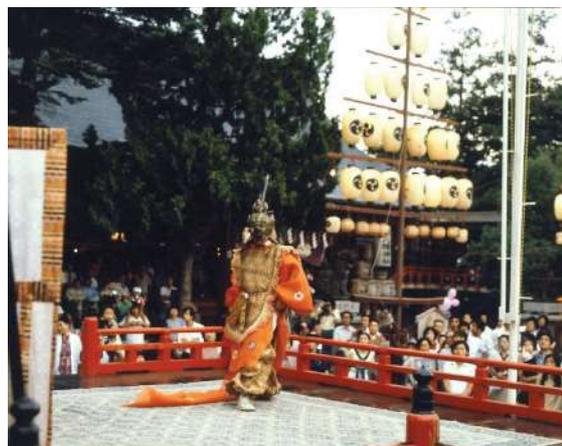
㉖ひな市 (ひなまつり)



③①林家舞楽



③④谷地八幡宮



③②尾花沢雅楽



③⑤慈恩寺旧境内



③③尾花沢まつり囃子



③⑥木造弥勒菩薩及び諸尊像

附 弥勒菩薩像像内納入品

③⑦慈恩寺本堂



③⑧芋煮



③⑨おみづけ



認定番号	日本遺産のタイトル
56	山寺が支えた紅花文化

(1) 将来像 (ビジョン)

地域を超えた多様な主体による「体験型山寺と紅花ミュージアム」の実現
 ～子供、若者、外国人等県内外の様々な層の方を巻き込み「山寺と紅花」ファンの輪を広げる～

日本遺産の認定を受けて、平成30年度に市町等構成団体の関係者が当地域の目指すべき姿を議論し、当地域のブランド戦略として「山寺と紅花体験型ミュージアム」構想を策定した。これは、山寺を一つの中心、当地域の玄関口の一つに据えて、構成市町それぞれを巡りながら紅花文化を体験して学ぶ、という地域全体で一つの体験型の紅花ミュージアム（博物館、美術館、資料館等）となることを目指す、というものである。この将来像に向けて、協議会の構成団体が連携して、地域活性化に取り組んでいくこととしている。

【「山寺と紅花体験型ミュージアム」構想の概要】

県内でも有数の知名度を持つ山寺を訪れる方に対して、紅花にまつわるストーリーでつながっている各地の文化財、伝統文化、歴史などを紹介し、各地域にも訪れてもらい、各地域ではそのストーリーを深く知ることができる体験型のコンテンツを用意することにより、より深く身近に山寺と紅花を感じてもらうことを目指す。

【地域住民の未来】

【「山寺と紅花」で広域に各地をつないで地域の一体感を生み出し、老若男女が山寺や紅花に関わり、地域の歴史や文化を学び、郷土への愛着心や誇りを得られる地域】

- ・観光客向けの体験型の観光コンテンツや地域の小学生等若い人向けの体験学習会などに年配の方が先生として関わることで、世代間の交流を生み出したり、活躍の場（生きがい）を得たりする。

- ・小学生や学生等、若い世代が地域の文化や歴史を体験しながら学び、郷土への愛着心や誇りが育まれることで、将来的にはそれらの文化等の担い手となって地域や伝統を受け継いでいく。

【来訪者、観光客の未来】

【山寺や慈恩寺などの精神文化、紅花とその交易がもたらした伝統文化、文化財といった歴史に直に触れる体験を通して日本遺産のストーリー、サブストーリーを学び、知見を広

め、人生を豊かにすることができる地域】

・当地域各地に伝わる文化財や伝統文化等の紅花文化は、紅花等の交易・交流に伴って地域内の各地や全国各地を結んでおり、その一つひとつに伝承、ストーリーがある。また、一つの文化財、伝統文化は、伝わっていく中で新たな文化財、伝統文化を生み出し、派生して広がって、この地域を形成している。当地域の文化財・伝統文化等の一つを知ってもらう際に、それにまつわるストーリーも紹介し、そこからつながるサブストーリーにも興味を持ってもらい、それらの場所にも訪問してもらって、より深く当地域の歴史と伝統文化に親しんでもらう。

【民間事業者の未来】

【情報発信拠点施設等をつないで連携イベント等を実施することにより賑わいを創出し、地域の飲食店、商店街等と一体となって地域振興に取り組む地域】

・各市町には、日本遺産を構成する文化財、伝統文化等に関連した資料等を展示する資料館や観光情報発信施設等の情報発信拠点施設があることから、それらを起点として日本遺産等の情報発信や日本遺産に関する連携イベント等を行い、広域の周遊につなげ、人の交流を活性化させて地域の賑わいを創出する。

・地域毎に開花時期が異なることから統一することが難しい各地の紅花まつりを統合的に情報発信し、地域全体で「紅花のシーズン」として盛り上げ、地域経済に好影響が広がるように展開する。

【地域の長期的構想（総合計画等）への位置づけ】

・第4次山形県総合発展計画、山形県文化財保存活用大綱、山形県文化推進基本計画、第2次おもてなし山形県観光計画、第6次山形県教育振興計画の長期構想において、日本遺産を観光振興、文化振興及び教育振興に活用することで、その価値を再認識し、地域への愛着を深め、地域における持続的な保存と活用の取組みにつなげていく施策を推進することとしている。

・構成団体の各市町でも、総合計画や観光振興計画等において、日本遺産を、あるいは日本遺産を構成する文化財等を観光振興、文化振興及び教育振興に活用しながら、地域振興を図るとともに、文化財の保存と活用を展開することとしている。

(2) 地域活性化計画における目標

目標①：地域住民や国内外からの来訪者が日本遺産のストーリーに触れ、その魅力を体験すること

指標①-A：情報発信拠点施設等への来訪者数（山寺を除く）

年度	実績			目標		
	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年
数値	385,033人	437,578人	集計中	488,000人	494,000人	500,000人
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	<p>情報発信拠点施設等（山形まるごと館紅の蔵（山形市）、慈恩寺テラス（寒河江市）、芭蕉、清風歴史資料館（尾花沢市）、山辺町ふるさと交流センターあがらっしゅい（山辺町）、重要文化財旧柏倉家住宅（中山町）、河北町紅花資料館（河北町）、大石田町立歴史民俗資料館（大石田町））及び 紅花まつり（天童市、白鷹町）への来訪者数 ※2018年度：410,185、2019年度：389,238、2020年度：302,384 県の現観光計画中の観光者数の伸び率（6年で約7.5%増）から1年で1.25%増と算出。更に2019年度の数値（389,238）に、慈恩寺テラス（2021年度オープン）の来訪者数を考慮して2023年度の数値を想定の上2024年度以降、対前年度比1.25%増として設定。</p>					

目標①：地域住民や国内外からの来訪者が日本遺産のストーリーに触れ、その魅力を体験すること						
指標①-B：山寺への来訪者数						
年度	実績			目標		
	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年
数値	391,700人	593,000人	集計中	769,000人	778,000人	787,000人
目標値の設定の考え方及び把握方法	<p>情報発信拠点施設の中でも来訪者数が格段に多く、ストーリーの中でも核となる施設であるため、①-Aと分けて設定。 ※2018年度：787,700、2019年度：760,200、2020年度：440,100 県の現観光計画中の観光者数の伸び率（6年で約7.5%増）から1年で1.25%増と算出。更に2019年度の数値（760,200）を2023年度の数値として想定の上2024年度以降、対前年度比1.25%増として設定。</p>					

目標②：地域において日本遺産のストーリーが誇りに思われること						
指標②-A：地域住民が日本遺産を誇りに思う割合						
年度	実績			目標		
	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年
数値	94%	85%	93%	90%	90%	90%

目標値の設定の考え方 及び把握方法	日本遺産の日近辺に実施する県アンケートの結果を数値目標として設定。構成市町の居住者のうち、「山寺と紅花」に対して誇りや愛着を「とても感じる」又は「感じる」と回答した方の割合を目標値として設定。
----------------------	--

目標③：日本遺産を活用した事業により、経済効果が生じること						
指標③－A：Yamaderans、着地型旅行商品等協議会実施事業の収入額						
年度	実績			目標		
	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年
数値	－	340,350円	集計中	361,182円	372,017円	383,177円
目標値の設定の考え方 及び把握方法	県の現観光計画中の観光消費額の伸び率（6年で約19%増）から1年で約3%増と算出し、2022年度～2026年度までで12%増を目標値（対前年比103%目標）として設定。					

目標④：日本遺産のストーリー・構成文化財の持続的な保存・活用が行われること						
指標④－A：日本遺産の構成文化財が毀損滅失していない（活用可能な状態にある）割合						
年度	実績			目標		
	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年
数値	100%	100%	100%	100%	100%	100%
目標値の設定の考え方 及び把握方法	基本的に「100%の維持」を目標とした数値設定。					

目標⑤：地域への経済効果も含め広く波及効果が生じること						
指標⑤－A：地域の観光入込客数						
年度	実績			目標		
	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年
数値	9,585.5 千人	12,365.5 千人	集計中	15,169.1 千人	15,358.7 千人	15,550.6 千人
目標値の設定の考え方 及び把握方法	構成市町の観光入込客数の合計数 ※2018年度：15,636.6千人、2019年度：14,981.9千人、 2020年度：8,619.1千人 県の現観光計画中の観光者数の伸び率（6年で約7.5%増）から1年で1.25%増と算出。更に2019年度の数値（14,981.9）を2023年度の数値として想定の上2024年度以降、対前年度比1.25%増として設定。					

(3) 地域活性化のための取組の概要

【地域の現状】

山形県の内陸部では、この地域の盆地特有の気候や風土が栽培に適していたことから、江戸時代中頃以降、紅花の栽培が盛んであった。県内を縦貫する最上川を活用した舟運が活発になり、紅花を染料として京都、大阪、江戸等に輸送するため、紅餅の製造技術が発達し、当地は紅花の産地として、また染料の加工・出荷拠点として栄えた。その交易により、京都、大阪等の商品や文化が山形にもたらされ、それらが当地に流通し、あるいは根付くことで、今日の文化財、伝統文化として、今に伝えられている。

現在、国重要文化財の立石寺根本中堂や国史跡に指定されている慈恩寺旧境内をはじめとする文化財のほか、紅花畑の景観、各地の紅花まつりや花笠まつり等の紅花にまつわる文化、芋煮等の食文化などが山形市等の9市町に受け継がれ、当地域の日常に溶け込んでいる。日頃から接しているものが、その歴史を辿ると上方からもたらされたものであった、いうなれば紅花がもたらしたものだ、ということは地元の方でも知らないことがある。

そのような地域の歴史や文化を広く知ってもらうため、各市町の資料館等において、紅花をはじめとする交易の歴史や地域の風習等を展示しているほか、山寺や慈恩寺等の観光地、文化財等の観光客等が集まる場所において、解説看板やパンフレット等により、山寺と紅花にまつわる物語を伝えている。加えて、紅花の美しさを見るだけではなく実際に体験することができるように、紅花の栽培や紅花摘みの体験、紅餅づくりや紅花染めの体験などのツアーも実施している。

また、現在も継続されている当地域の紅花の生産・加工技術は、日本で唯一、世界でも稀有な生産・染色用加工システムとして、平成31年2月に日本農業遺産に選定された。紅花は、今現在を「生きている文化財」というべきものであり、近年では紅花の若菜や乱花を使った料理や加工食品が作られているほか、紅花の持つ有効成分を抽出して新たな機能性化粧品が開発されるなど、新たな価値、文化を生み出し続けているといえる。

山寺においては、当地域で最も観光客が多く訪れる観光地のひとつであり、当地域のゲートウェイとして紅花の咲く時期には駅前に紅花を飾って観光客を出迎えるなど、山寺と紅花の印象をアピールしている。外国人観光客も多く訪れることから、多言語に対応した外国語ガイドを組織し、インバウンド需要の取り込みも図っている。

一方で、新型コロナウイルスの感染拡大と感染拡大防止のための規制や外出自粛等の影響により、令和元年度から令和5年度にかけて、観光客の減少や地域活動の中止・縮小が見られた。山形市で夏に開催される花笠まつりは、昭和38年の第1回以降初めて、令和2年に中止となるなど、各地の祭りやイベント、体験教室などが開催できなかった。感染拡大防止のため、少人数での開催に切り替えた伝統文化の親子体験教室では、その体験の様子を動画で撮影し、伝統文化を紹介する動画として編集し、後日地域の小学校の教材として活用できるようチラシを配布したほか、インターネット上の動画投稿サイトにおいて情報発信し、多くの方に伝統文化を伝えられるように工夫した。

当地域では、日本遺産認定をきっかけに、ストーリーの中で魅力を掘り起こし、構成文化財保存・活用団体と市町の官民一体となった連携により、地域活動が行われている。

一方で、少子高齢化や人口減少により、紅花栽培や伝統行事、文化財の保護、観光案内

ガイド等を継承する担い手の高齢化や減少、ストーリーを構成する歴史的建造物や景観・自然環境等の地域資源を守るための資金確保等の課題が存在している。また、新型コロナウイルス感染症の影響により、観光形態や観光客のニーズは変容してきており、今後も社会情勢等の変化に随時対応しながら観光振興、地域振興に取り組んでいく必要がある。

【これまでの成果・課題】

1 観光振興に関する成果と課題

日本遺産の認定後、構成文化財の解説板やポータルサイト等のストーリーを伝える基本的なコンテンツを整備し、観光・文化財等の案内ガイドの養成やガイダンス施設等の受入環境整備が進められてきた。協議会を構成する各市町の観光担当課や各地域の観光協会等が連携し、ツアー商品や伝統文化等の体験型コンテンツの造成等にも取り組んできた。特に、平成29年度に設立されたDMC天童温泉では、山寺から天童温泉までの約10キロを歩きながら、山形の食と酒を楽しむウォーキングイベントを企画・実施するなど、広域的に観光地・文化財等をつなぐ周遊にも力を入れている。

また、地域内の紅花に関する観光地では最も観光客が多く、外国人観光客も多く訪れる山寺では、外国人観光客のニーズに応えるため、地元の山寺観光協会の外国語ガイド部門として「Yamaderans（ヤマデランズ）」を立ち上げ、外国人観光客にも山寺はもちろんのこと、日本遺産を含めて、山形の魅力を伝えている。

それらの成果については、令和2年度から5年度にかけて、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を大きく受けており、感染拡大防止対策の規制緩和後も観光形態、ニーズの変容があったため、観光客数等の数値に現すことは困難であるが、上記のような観光コンテンツの造成や受入体制、環境の構築に見ることができる。

一方で、県内外、海外の観光客の様々なニーズに応える観光コンテンツが十分に用意されているとはまだ言えない。観光コンテンツを用意しても、その周知広報が様々な客層に行き届いていないこと、地域ごとの観光コンテンツはあるものの構成市町内の広域周遊や滞在につながっていない、という課題もある。令和6年度から8年度までの本計画期間においては、ビジョンの実現に向けて、以下の課題に取り組む必要がある。

課題1 「山寺と紅花」を活用した着地型の充実及び効果的な情報発信

- ・ニーズに応じた観光コンテンツの開発、プロモーションが必要
- ・構成市町間での周遊が必要
- ・「山寺と紅花」のストーリーへの理解を深めるための情報発信が必要

2 普及啓発に関する成果と課題

認定後、構成市町における学校と連携した紅花の栽培や紅花染の体験等に係る学習活動や、資料館等の情報発信拠点施設における学習体験機会の創出がなされている。令和3年度からは協議会として、親子で「山寺と紅花」の歴史や伝統文化を学ぶ「伝統文化体験事業」を実施し、コロナ禍において少人数の体験会になっても、多くの人々が疑似体験できるように、体験の様子を動画で記録し、編集して動画視聴サイトに掲載する等、工夫しながら

ら普及啓発に取り組んできた。歴史や伝統文化に触れる機会や学ぶ機会を創出することで、日本遺産の認知度向上や地域への誇りと愛着の醸成につながっている。

しかしながら、コロナ禍で伝統行事・イベント等の中止や外出機会が減少したことにより、地域全体で「山寺と紅花」を学んでいくという活動が実施しにくかったため、各地域のつながりについての理解促進に課題を残している。令和6年度から8年度までの本計画期間においては、ビジョンの実現に向けて、以下の課題に取り組む必要がある。

課題2 「山寺と紅花」にまつわる文化や歴史、地域の取組等に対する理解の促進が必要

- ・「山寺と紅花」と各市町との関わりについての理解が必要
- ・「山寺と紅花」及び日本遺産制度の認知度の向上が必要

3 基盤強化に関する成果と課題

文化財、伝統文化を継承していくためには、地域の活性化は不可欠であるため、認定後、日本遺産に関する事業を進める中で、その活動の基盤づくり、基盤となる「人」の確保及び育成に取り組んできた。新規事業の検討や交流のためのワークショップ、体験事業、旅行商品内での体験等を実施する際に、講師・指導者、参加者として、多くの地域団体や民間事業者等から継続した参加・協力を得られており、多様な地域プレーヤーの掘り起こしや協業にもつながっている。

だが、人口減少や高齢化の流れは当地域でも進んでおり、地域の行事や文化財の継承者、観光案内ガイドの担い手の確保が難しくなっている。伝統行事等の地域活動を担う参加者、運営者といった関係者についても、人口減少と高齢化の影響を強く受けている。令和6年度から8年度までの本計画期間においては、ビジョンの実現に向けて、これまでの取組みの中から新たに増えてきた以下の地域課題にも取り組む必要がある。

課題3 文化財の継承や地域活動の担い手の確保

- ・文化財継承者、観光案内ガイド等の高齢化による担い手不足
- ・地域人口の減少による地域活動の担い手不足
- ・協議会内の更なる情報共有が必要

以上の課題を踏まえ、ビジョンを実現するため、以下の柱立てと基本的な取組みを行う。

【柱1：観光振興】山寺や紅花文化を活用した満足度の高い観光の推進(課題1に対応)

外国人や地域内外の観光客のそれぞれのニーズに応じて、地域への来訪者が山寺、慈恩寺等の歴史や精神文化、紅花染等の紅花文化等を体験する着地型の旅行商品等を地域内の各市町に生み出し、それらを巡る周遊ツアーの造成につなげ、多くの人がこの地域の歴史と文化を直に感じる機会を創出する。また、インバウンドの需要拡大に対応するため、当地域のゲートウェイである山寺の外国語ガイドチームへの支援を強化し、新たなルートを開発するほか、他地域のガイド同士の交流・連携を図り、「山寺と紅花」全体のガイドのレベルアップを図る。

それらを効果的に情報発信して誘客を拡大するため、他地域の日本遺産とも交流し、連

携して商品等を開発・販売するなど、魅力の増進やその魅力を伝える情報発信を強化する。
基本的取組みは以下のとおり。

- ① 着地型旅行商品の開発及びプロモーションによる誘客の促進
- ② 地域内での周遊の促進
- ③ 山寺外国語ガイドへの支援
- ④ 各市町のガイド同士での情報共有等による連携の強化

【柱2：普及啓発】「山寺と紅花」に係る学びを通じたシビックプライドの醸成(課題2に対応)

地域の子供たちが「山寺と紅花」のストーリーを学ぶことができる伝統文化等の体験事業を展開し、当地域の歴史と伝統文化への誇りや地域への愛着を育む。また、紅花栽培による紅花の景観の創出など、地域住民の自主的な取組みの支援や、各市町の資料館等の情報発信拠点で行う「山寺と紅花」の展示・解説等による理解促進により、地域住民にも日本遺産を知ってもらい、より深く伝統文化に関わってもらう。

併せて、SNS等のデジタル媒体等を活用し、個々の文化財としてではなく、「山寺と紅花」のストーリーに基づく地域のつながりを広く知らしめ、「山寺と紅花」や日本遺産のロゴマークを積極的に用いて、日本遺産の認知度向上を図る。

基本的な取組みは以下のとおり。

- ① 地域の子供たちを主な対象とした山寺及び紅花文化に係る体験事業の推進
- ② 地域住民等が実施する紅花に係る事業の促進
- ③ 「山寺と紅花」及び日本遺産制度の情報発信の強化

【柱3：基盤強化】「山寺と紅花」を支える基盤づくり(課題3に対応)

高齢化や人口減少を克服するべく、地域内における活動を活性化させるため、「山寺と紅花」の関係者の交流の場を創出するとともに、これまで関わっていなかった方にも広く参加してもらうような取組みを展開し、新たな出会いから新たな展開を生み出し、地域内外の様々な人が中長期的に地域内の事業に携わるプラットフォームを創出する。地域の外からでも、海外からでも、「山寺と紅花」の事業に参加したり、応援したりできるような基盤づくりを進める。そのために、県外でのイベント等にも積極的に参加し、「山寺と紅花」の魅力発信に努める。

基本的な取組は以下のとおり。

- ① 観光、まちづくり、文化財、農業等様々な分野に関わる人々同士の交流とそれぞれの活動の活性化の促進
- ② 若者、外国人、県外在住者を含む民間事業者等の参画の推進
- ③ 活発な意見交換及び情報共有の推進

(4) 実施体制

○実施主体 「山寺と紅花」推進協議会

【構成団体】 自治体：山形県（観光文化スポーツ部博物館・文化財活用課、観光復活推進課、農林水産部県産米・農作物ブランド推進課、園芸大国推進課、教育局生涯教育・学習振興課、村山総合支庁観光振興室、置賜総合支庁観光振興室）、
山形市（企画調整部文化創造都市課、商工観光部ブランド戦略課、観光戦略課、農林部農政課）、
寒河江市（農林課、さくらんぼ観光課、教育委員会生涯学習課）、
天童市（農林課、商工観光課、教育委員会生涯学習課）、
尾花沢市（商工観光課、教育委員会社会教育課）、
山辺町（産業課、教育委員会教育課）、
中山町（産業振興課、教育委員会教育課）、
河北町（農林振興課、商工観光課、教育委員会生涯学習課）、
大石田町（教育委員会教育文化課、産業振興課）、
白鷹町（教育委員会、商工観光課）

民間団体：観光団体（（公社）山形県観光物産協会、（一社）山形市観光協会、山寺観光協会、（一社）寒河江市観光物産協会、（一社）天童市観光物産協会、（一社）尾花沢市観光物産協会、山辺町観光協会、中山町観光協会、（一社）河北町観光協会、大石田町観光協会、（一社）白鷹町観光協会、（一社）東北観光推進機構）

紅花栽培関係団体（山形県紅花振興協議会、山形県紅花生産組合連合会、高瀬地区紅花生産組合、貫津紅花栽培組合、白鷹紅の花を咲かせる会）

その他関係団体（おいしい山形推進機構、やまがた食産業クラスター協議会、宝珠山立石寺、山寺地区振興会、高瀬地区振興会、上貫津町内会、白鷹町滝野区、やまぐち紅花若菜会、山形中央クッキングスクール）

○事業実施において連携するその他民間団体

【観光振興】

- ・DMO さくらんぼ山形、DMC 天童温泉 等：着地型旅行商品、構成市町内のエリアを周遊する旅行商品の造成・販売 等
- ・ガイド団体：新たなガイドコースの販売、ガイド交流会の開催 等

【普及啓発】

- ・山寺と紅花の会、やまでら紅花クラブ、天童紅花メイト 等
：景観保護のための紅花畑の栽培、地域の教育機関と連携した紅花栽培・紅花染め・

紅花料理等の体験事業の実施 等

- ・文化財保存団体その他の文化財継承者 等：親子の体験事業の実施 等

【基盤強化】

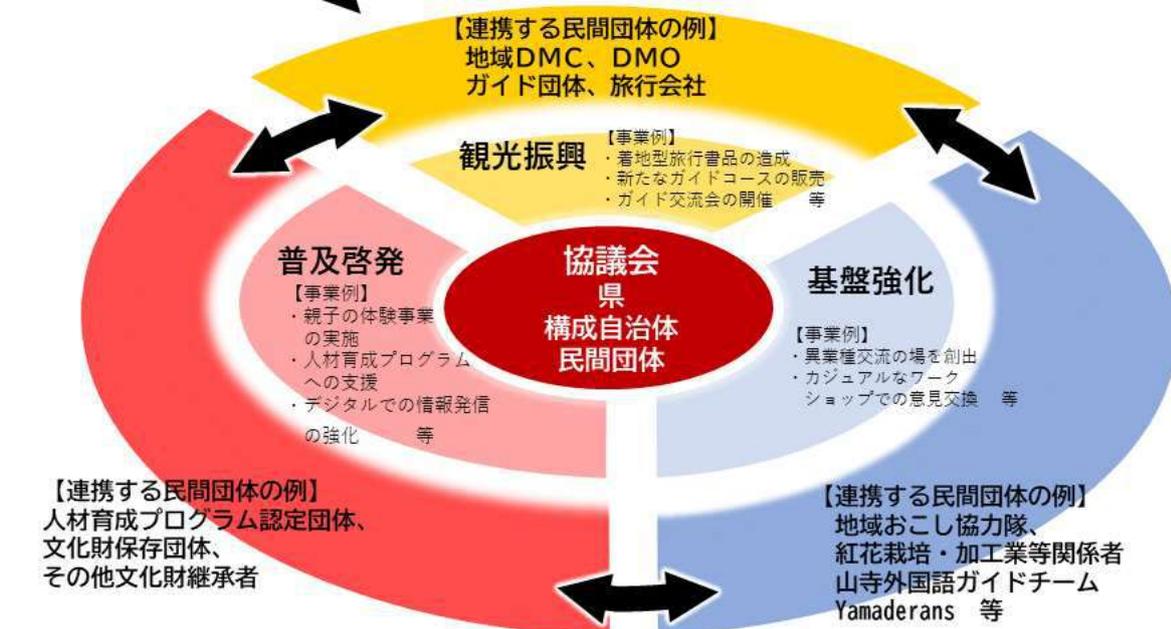
- ・地域おこし協力隊、紅花栽培・加工業等関係者、山寺外国語ガイドチーム Yamaderans 等：異業種交流の場を創出、カジュアルなワークショップでの意見交換 等

他の日本遺産との連携

県内 出羽三山「生まれかわりの旅」
北前船
サムライゆかりのシルク

染と織の日本遺産

かかあ天下
藍のふるさと阿波
桑都物語



- ・協議会内においては、県、構成自治体及び民間団体間で情報共有を密に行い、事業を進める。
- ・事業実施に当たっては、着地型旅行商品の企画（観光振興）、新たなガイドコースの販売、親子の体験事業の実施（普及啓発）等において、各構成市町の民間団体と連携の上事業を行う。また、民間の紅花栽培者、紅花加工業者、観光協会、文化財継承者、学生等様々な分野の方を交えたカジュアルなワークショップを適宜開催し、様々な視点からアイデアを募ることで、ビジョンである「山寺と紅花体験型ミュージアム」を具現化するための取組みを行う。

〔人材育成・確保の方針〕

○普及啓発における人材育成・確保

- ・構成文化財である「紅花畑の景観」を保護継承するための人材育成プログラムを実施し、地域住民が自発的に行う紅花畑の栽培等を支援するとともに、地域の教育機関と連携し、子供たちが行う紅花栽培、紅花染め等の体験に対しても支援を行う。

- ・親子の体験事業を実施し、地元にある紅花文化を見聞きするだけでなく体験を通して触れてもらうことで、郷土愛の醸成を図る。

○観光振興における人材育成・確保

- ・ガイド団体について、研修会やガイド同士の交流会を開催することで、「山寺と紅花」全体のストーリーと各構成市町との関わりについて学ぶ機会を創出する。このことにより、各構成市町同士の関わりが見えるようになるほか、各団体の取組みを自らの団体の取組みに活かすことが期待される。

○基盤強化における人材育成・確保

- ・各構成市町の観光、文化財、農林等様々な分野に関わる民間の方を集めたワークショップを開催する。具体的な事業実施に当たってのワークショップのみならず、参加者同士が気軽に情報交換等を行い、交流を深めるための機会を創出することで、参加者たちによる偶発的で自発的な取組みを促していく。

(5) 日本遺産の取組を行う組織の自立・自走

○財源の確保における自立・自走

「山寺と紅花」推進協議会が取りまとめる事業のうち、着地型旅行商品の造成及び山寺外国語ガイド「Yamaderans」のガイドについて収益化されている。なお、着地型旅行商品造成事業については、収益の一部が協議会費となっており、山寺外国語ガイド Yamaderans については、収益の一部が協議会に寄付されている。今後、着地型旅行商品や、Yamaderans のコースの数を増やすことで参加者数の増加や滞在時間の延長に繋げ、地域に広く経済効果を波及させるとともに協議会への収入に繋げていく。

また、協議会以外が行う事業のうち、例えば「DMO さくらんぼ山形」は、紅花の主な用途である「赤の染色用の材料」、「観賞用」というイメージからのリブランディングを行い、「食」を主なキーワードに紅花の「黄色」や「香り」等を活用したハーブティーやカレー、ケーキ等の紅花商品の開発を行っている。今後、マーケットインの観点から商品を開発し販売することにより、紅花の需要拡大を図り、紅花生産者の利益拡大に繋げ、経済波及させていく。

併せて、各市町にて開催される紅花まつり、花笠まつり、ひなまつり等の構成文化財を活用した集客力の高いイベントについても引き続き実施することにより、地域の飲食店やその他の小売業者への経済波及効果が期待できる。

○事業実施における自立・自走

柱1の観光振興については、DMC 天童温泉や DMO さくらんぼ山形等の地域 DMC・DMO を主体とした着地型旅行商品、土産物等の開発、Yamaderans 等の地域ガイドが行う地域の魅力発信により、地域外の方にも「山寺と紅花」や地域そのものに関心を持ってもらう。

柱2の普及啓発については、紅花景観保護サポーター等人材育成プログラムの認定団体を主体とした紅花畑の景観保護や紅花栽培、紅花染め体験等を通じた文化の担い手の確保を行う。併せて、親子の体験事業の実施を通して地域の方に身近にある伝統文化を改めて知ってもらうことにより、郷土愛の醸成を図り、文化財に係る技術の継承者のみならず地域行事への参加等様々な立場からの文化継承の担い手を確保する。

柱3の基盤強化については、異業種交流会である「山寺と紅花サロン（仮称）」を開催し、観光、まちづくり、文化財、農業等様々な分野に関わる人々同士の交流とそれぞれの活動の活性化を推進する。また、協議会事業においても、県内外の様々な方に協議会事業に関わってもらふことにより、多様な視点からのアイデアをもとに事業内容を固めていく。

柱1から柱3までの事業を通して様々な分野の方に加わってもらい、多様な層に「山寺と紅花ファン」を増やし人材を確保することにより、継続的な事業実施を目指す。

（6）構成文化財の保存と活用の好循環の創出に向けた取組

前述した3つの柱に沿った事業のうち、以下の取組みを重点的に進めることにより、構成文化財の保存と活用の好循環を目指す。

柱1の観光振興については、着地型旅行商品の造成事業を引き続き行い、地域に様々な商品を造成することで、ビジョンに掲げている「山寺と紅花体験型ミュージアム」の実現を図る。商品については単に体験を作業として落とし込むのではなく、かつての山形の紅花栽培や現在まで受け継がれてきた各地の紅花文化と紅花との関わり、山寺と紅花との関わり等のストーリーについて、講師を務める地域住民自らが伝えることにより、参加者のストーリーへの深い理解に繋げる。また、参加者と地域住民との交流を生むことにより参加者の満足度の向上に繋げる。

柱2の普及啓発については、親子の体験事業の実施により、体験を通して幼少期の子供たちに地域に伝わる文化財やその歴史等のストーリーについて学び、その貴重さ、技術の高さを感じてもらふとともに、保護者にも体験を通して改めて身近な文化財に関心を持ってもらうことで郷土愛の醸成を図る。併せて、地域行事への参加等を通して継続的に文化財に関わってもらふことを目指していく。

柱3の基盤強化については、観光、まちづくり、文化財、農業等様々な分野に関わる人々が一堂に会する異業種交流の場を創出し、情報交換することにより新たなアイデアを生むとともにそれぞれの活動の活性化に繋げる。

特に柱3の基盤強化の実現のため、地域外の様々な分野の方にも加わっていただくこととなるが、柱1から柱3までのいずれの事業においても地域の方に参加いただき、意見を交わしながら事業を作り上げることにより、新しい視点も取り入れながら地元にも過度な負担をかけることの無い、地域のニーズにも沿った持続可能な「山寺と紅花」の事業実施を目指していく。

また、文化財の所有者や継承者が事業に加わることにより、文化財の正しい理解に繋がるとともに、それぞれの文化財にまつわる多様なサブストーリーから事業を展開することで、経済・流通、食文化、建築、民俗等様々な切り口から事業を展開する。多様なフックを設けて事業を展開し、「山寺と紅花ファン」の輪を広げ、関心を持ってもらうことにより、着地型旅行品や紅花関連商品の購入、紅花まつり等のイベントでの経済波及効果に繋

げ、これらの経済効果を文化財の保存に還元するという保存と活用の好循環を図る。

(7) 地域活性化のために行う事業

(7) - 1 組織整備

(事業番号 1 - A)

事業名	「山寺と紅花」推進協議会の組織強化		
概要	日本遺産「山寺と紅花」関連事業の実施に当たり、協議会構成団体である民間団体との連携のみならず、その他構成市町内外の民間の方等とも連携し、様々な切り取り方で「山寺と紅花」の魅力を発信する。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	組織運営・PDCA サイクルを回す仕組みの整備	日本遺産事業の PDCA サイクルを回す仕組みとして、事務局会による意見交換の場を年に3、4回開催し、進捗状況等を確認しながら事業を行う。また、ボトムアップの仕組みとして、事務局会等での意見を総会や幹事会において協議し、協議会全体での意見をもとに事業をブラッシュアップしていく。	協議会
②	活発な意見交換及び情報共有の推進、民間の巻き込み	事業実施に当たり、アイデアや意見を求めるワークショップや民間を含めた関係者を交えた異業種交流会等を開催する。カジュアルな意見交換の場を設け、参加者同士の交流を深める機会を創出することで、参加者たちによる偶発的で自発的な取組みを促していくとともに、関係者、関係団体の増加を図り、もって事業への参加に繋げていく。	協議会 各市町 民間
③	他の日本遺産との連携強化	県内の他の3つの日本遺産とは引き続き連携し、日本遺産の認知度アンケートの実施、PR イベントで連携してブースを出展する等していく。 県外の日本遺産についても引き続き、「日本の染と織」のテーマのもと、群馬県の「かかあ天下」、徳島県の「藍のふるさと阿波」、八王子市の「桑都物語」と連携の上商品造成、イベントでの共同PRを行う。	協議会
④			
年	事業評価指標		実績値・目標値
2021年	・日本遺産への協力者（団体）数		36人（団体）
2022年			38人（団体）

2023年		41人（団体）	
2024年		46人（団体）	
2025年		51人（団体）	
2026年		56人（団体）	
事業費	2024年：400千円	2025年：400千円	2026年：400千円
継続に向けた 事業設計	協議会内外の多様な分野の民間の方に事業に参加いただくことにより、様々な視点からのアプローチで事業を進めていく。また、カジュアルに意見交換できるようなワークショップを開催し意見交換することにより、参加者同士による偶発的かつ自発的な事業実施に繋げ、事業実施主体としての将来的な事業の自立・自走を目指す。		

(7) - 2 戦略立案

(事業番号 2 - A)

事業名	それぞれの行政計画に沿った事業の実施		
概要	各市町及び県で策定する中・長期的な計画に「山寺と紅花」に係る取組みを組み込み、各自治体での中・長期的な目標の達成のため、「山寺と紅花」を活用していく。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	各自治体での行政計画への組み込み	各自治体での行政計画に、「山寺と紅花」の活用について組み込み、日本遺産事業を通じた地域活性化を推進する。	山形県 各市町
②	ニーズに応じた商品開発や紅花のリブランディング	現代の需要に合わせリブランディングを行った紅色について訴求できる Web サイトや VI を作成。紅花に対する新たな需要創出を目指す。 併せて、紅花のクラフトビール開発、紅花色・紅花染めの色の風呂敷、手ぬぐいの開発、バーホッピングメニュー開発等により、様々なフックを設け幅広い層に気軽に紅花に触れてもらう機会を創出する。	DMO さくら んぼ山形
③	組織運営・PDCA サイクルを回す仕組みの整備【再掲】	日本遺産事業の PDCA サイクルを回す仕組みとして、事務局会による意見交換の場を年に3、4回開催し、進捗状況等を確認しながら事業を行う。また、ボトムアップの仕組みとして、事務局会等での意見を総会や幹事会において協議し、協議会全体での意見をもとに事業をブラッシュアップしていく。	協議会
④	活発な意見交換及び情報共有の推進、民間の巻き込み【再掲】	事業実施に当たり、アイデアや意見を求めるワークショップや民間を含めた関係者を交えた異業種交流会等を開催する。カジュアルな意見交換の場を設け、参加者同士の交流を深める機会を創出することで、参加者たちによる偶発的で自発的な取組みを促していくとともに、関係者、関係団体の増加を図り、もって事業への参加に繋げていく。	協議会 民間（観光、まちづくり、文化財、紅花栽培・加工業関係者等）
年	事業評価指標		実績値・目標値
2021年	・日本遺産事業、協議会事業の趣旨に沿った行政計画の策定済み数		12本（予定）
2022年			
2023年			12本
2024年			12本
2025年			12本

2026年			12本
事業費	2024年：0千円	2025年：0千円	2026年：0千円
継続に向けた事業設計	各構成自治体の行政計画内において既に日本遺産や各構成文化財の活用による観光振興については地域活性化について定められているところであるが、計画の更新後においても引き続き当該計画内に日本遺産や構成文化財の活用について定めることの担保を図る。		

(7) - 3 人材育成			
(事業番号3-A)			
事業名	ガイド等の地域の担い手の育成		
概要	地域のガイドやインバウンドガイドの研修会、交流会等を通して情報交換を行うとともにガイドの育成、ガイド商品の磨き上げを行う。併せて、景観保護プログラム、親子体験事業を通して文化財継承者の確保を図る。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	ガイド交流会の実施	地域内のガイドの交流会を開催。情報交換を行うとともに、それぞれのガイド商品の磨き上げに繋げる。また、互いの地域の魅力を紹介し合うことにより、各ガイドが自分のエリア外の魅力についても発信できるようにする。	協議会 ガイド団体
②	山寺外国語ガイド「Yamaderans」の磨き上げ	山寺外国語ガイド「Yamaderans」内の研修会等を通してガイドの磨き上げを行う。また、他のエリアのガイドと交流する機会を設け、他のエリアの魅力を紹介できるようにすることにより、構成市町内でも特に集客力の高い山寺から他のエリアへの誘客を促す。	Yamaderans
③	景観保護プログラムの実施	紅花景観保護サポーター等人材育成プログラムの認定団体が主体となり実施する紅花栽培や教育機関と連携した紅花染め体験等への支援を行う。紅花に関する体験を通して紅花の魅力を伝えることにより、将来的に紅花に関わる人材の確保に繋げる。	プログラム 認定団体
④	親子伝統文化体験事業の実施	親子で地域の伝統文化を体験する機会を創出しシビックプライドの醸成を図る。このことにより、伝統文化の担い手の確保のみならず、地域行事への参加等を促すことで、参加者として文化の継承に関わる人材も確保していく。	協議会 各市町 伝統文化継承者(紅花栽培、文化財保

				存会等)
年	事業評価指標		実績値・目標値	
2021年	・構成市町において組織されているガイド団体数		7団体	
2022年				
2023年			集計中	
2024年			7団体	
2025年			7団体	
2026年			7団体	
事業費		2024年：400千円	2025年：400千円	2026年：400千円
継続に向けた事業設計	各構成市町で活動するガイド団体については、その多くが高齢化による担い手不足という問題を抱えており、構成市町の中には、ガイド団体が組織されておらず、観光客からのオーダーがあった際に個別に対応できる者が対応するケースも多い。そこで協議会事業として各構成市町に所在するガイド団体の交流会を開催し、情報共有を行うことにより、地域間連携の強化を図るとともにそれぞれの地域外の情報も観光客に提供できるようにしていく。このため、以後3か年は既存のガイド団体の維持を目指す。			

(7) - 4 整備

(事業番号4-A)

事業名	「山寺と紅花」魅力発信拠点の整備		
概要	山寺と紅花のストーリーを伝えるための景観や施設の整備を行い単なる構成文化財の説明に留まらず、それぞれの繋がりを意識した魅力発信を行う。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	山寺等における紅花畑の整備	紅花景観保護サポーター等人材育成プログラムの実施等を通して、山寺における紅花畑を整備する。実際に山寺で紅花畑を目にしてもらうことにより、「山寺と紅花」のより深いストーリーの理解を促す。併せて、他の地区における紅花畑の整備も引き続き行っていく	プログラム認定団体 紅花栽培組合
②	情報発信拠点の整備	各市町に設置している情報発信拠点施設において、「山寺と紅花」の魅力発信を行う。また、「山寺と紅花」と各市町の歴史、文化との繋がりについても引き続き情報発信を行い、他の地域や他の文化財との関わりを伝えることで、それぞれの文化財へのより深い理解に繋げる。	各情報発信拠点施設
③			
④			
年	事業評価指標		実績値・目標値
2021年	・紅花景観保護サポーター等人材育成プログラム認定団体		3団体
2022年			3団体
2023年			3団体
2024年			3団体
2025年			3団体
2026年			3団体
事業費	2024年：200千円 2025年：200千円 2026年：200千円		
継続に向けた事業設計	紅花景観保護サポーター等育成プログラムの現在の認定団体である3団体を維持し、地域の紅花畑の景観保護を行う。また、過去6か年の事業実施により、プログラム認定団体が自主的に地域の教育機関と連携し、例えば山寺中学校で自らが栽培した紅花を修学旅行へ持参し、行程中にお世話になった方にプレゼントして普及啓発を行う等、景観保護のみならず人材育成等にも繋がっているため、引き続き認定団体の自主的		

	な活動を支援していく。
--	-------------

(7) - 5 観光事業化

(事業番号5-A)

事業名	体験等の五感を使った「山寺と紅花」のストーリーの発信		
概要	着地型旅行商品の開発等を通して観光客に五感を使った体験をしてもらうことにより、「山寺と紅花」のより深い理解に繋げ、「山寺と紅花ファン」を拡大する。また、間口を広くし様々な方に体験してもらう入門編としての商品、より踏み込んだコアな商品をそれぞれ開発し、多様なニーズに対応する。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	着地型旅行商品の開発	着地型旅行商品の開発により、「山寺と紅花」のストーリーを伝えるとともに、参加者に「山寺と紅花」にまつわる貴重な体験をしてもらうことによりストーリーのより深い理解に繋げる。具体的には「痛み」や「寒さ」といったマイナス面もカットせず体験してもらう商品を造成する。併せて各市町にて開発している商品についても引き続き実施し、体験を通して各市町の歴史や文化を知ってもらう。	DMC 天童温泉 各市町
②	紅花まつり等のイベントでの体験の実施	紅花まつり等各市町にて開催されるイベントにて紅花にまつわる体験を実施する。	各市町 各紅花まつり実行委員会
③	ニーズに応じた商品開発や紅花のリブランディング【再掲】	現代の需要に合わせリブランディングを行った紅色について訴求できる Web サイトや VI を作成。紅花に対する新たな需要創出を目指す。併せて、紅花のクラフトビール開発、紅花色・紅花染めの色の風呂敷、手ぬぐいの開発、バーホッピングメニュー開発等により、様々なフックを設け幅広い層に気軽に紅花に触れてもらう機会を創出する。	DMO さくらんぼ山形
④			

年	事業評価指標	実績値・目標値	
2021年	・地域の観光入込客数	9,685.5千人	
2022年		12,365.5千人	
2023年		集計中	
2024年		15,169.1千人	
2025年		15,358.7千人	
2026年		15,550.6千人	
事業費	2024年：500千円	2025年：500千円	2026年：500千円
継続に向けた事業設計	<p>構成市町の観光入込客数の合計数 ※H30:15,636.6千人、R1:14,981.9千人、R2:8,619.1千人 県の現観光計画中の観光者数の伸び率（6年で約7.5%増）から1年で1.25%増と算出。更に令和元年度の数値（14,981.9）を2023年の数値として想定の上2024年以降、対前年度比1.25%増として設定。</p>		

(7) - 6 普及啓発

(事業番号6-A)

事業名	「山寺と紅花」の体験を通じた地域住民への普及啓発		
概要	紅花景観保護サポーター等人材育成プログラムの実施、伝統文化親子体験事業等の体験を通して地域住民に「山寺と紅花」のストーリーと地域との繋がりを知ってもらう。併せて、紅花に係る商品開発を行い、紅花に関する様々なフックを設けることで改めて地域住民に紅花の魅力を体感してもらい、シビックプライドの醸成を図る。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	景観保護プログラムの実施【再掲】	紅花景観保護サポーター等人材育成プログラムの認定団体が主体となり実施する紅花栽培や教育機関と連携した紅花染め体験等への支援を行う。紅花に関する体験を通して紅花の魅力を伝えることにより、将来的に紅花に関わる人材の確保に繋げる。	プログラム認定団体
②	親子伝統文化体験事業の実施【再掲】	親子で地域の伝統文化を体験する機会を創出しシビックプライドの醸成を図る。このことにより、伝統文化の担い手の確保のみならず、地域行事への参加等を促すことで、参加者として文化の継承に関わる人材も確保していく。	協議会 各市町 伝統文化継承者(紅花栽培、文化財保存会等)
③	ニーズに応じた商品開発や紅花のリブランディング【再掲】	現代の需要に合わせリブランディングを行った紅色について訴求できる Web サイトや VI を作成。紅花に対する新たな需要創出を目指す。 併せて、紅花のクラフトビール開発、紅花色・紅花染めの色の風呂敷、手ぬぐいの開発、バーホッピングメニュー開発等により、様々なフックを設け幅広い層に気軽に紅花に触れてもらう機会を創出する。	DMO さくらんぼ山形
④			
年	事業評価指標		実績値・目標値
2021年	地域住民が日本遺産を誇りに思う割合		94%
2022年			85%
2023年			93%
2024年			90%
2025年			90%
2026年			90%

事業費	2024年：900千円 2025年：900千円 2026年：900千円
継続に向けた 事業設計	日本遺産の日近辺に実施する県アンケートの結果を数値目標として設定。構成市町の居住者のうち、「山寺と紅花」に対して誇りや愛着を「とても感じる」又は「感じる」と回答した方の割合を目標値として設定。

(7) - 7 情報編集・発信

(事業番号7-A)

事業名	デジタル、紙媒体、対面等様々な方法での情報発信
概要	協議会や各構成団体の SNS、ウェブサイト等のデジタルメディア、パンフレット等の紙媒体、イベント等での対面でのコミュニケーション等様々な方法により「山寺と紅花」の PR を行う。

	取組名	取組内容	実施主体
①	SNS、ウェブサイト等での情報発信	協議会や各構成団体の SNS、ウェブサイトを活用し、文化財やイベント等の情報発信を継続して行う。また、英語版、韓国語版、中国語（繁体語）版のプロモーション映像についても、公式 YouTube チャンネルでの公開等を通して引き続き活用し、「山寺と紅花」のストーリーの周知を図る。	協議会 構成団体
②	紙媒体での情報発信	各情報発信拠点施設、駅、県外の施設に「山寺と紅花」や各構成団体のパンフレットを配置し情報発信を行う。また、対面でのイベントでもこれらのパンフレットを配布しながら「山寺と紅花」や各構成市町、構成文化財の周知を行う。	協議会 構成団体
③	他の日本遺産との連携強化【再掲】	県内の他の3つの日本遺産とは引き続き連携し、日本遺産の認知度アンケートの実施、PR イベントで連携してブースを出展する等していく。 県外の日本遺産についても引き続き、「日本の染と織」のテーマのもと、群馬県の「かかあ天下」、徳島県の「藍のふるさと阿波」、八王子市の「桑都物語」と連携の上商品造成、イベントでの共同 PR を行う。	協議会
④			

年	事業評価指標	実績値・目標値	
2021年	・ SNS フォロワー数	—	
2022年		722人	
2023年		862人	
2024年		1,025人	
2025年		1,219人	
2026年		1,450人	
事業費	2024年：200千円	2025年：200千円	2026年：200千円

継続に向けた 事業設計	毎年度9月の数値を計上。2022年から2023年までのフォロワーの伸びが約19%であるため、前年度比119%で目標値を設定。イベント等で単にフォロワー数を延ばすのではなく投稿のエンゲージメント率を維持しながら着実にフォロワーを獲得するため、現状の伸びを維持する目標として設定した。
----------------	--